



撮 影：鈴木ヨシアキ

生きる事が楽しかった君と
僕は出逢えた…

大西弘記Ⅱ作 関根信一Ⅱ演出

征ったけれど

きみはいくさに

「消えたい」「生きる意味が分からない」と苦悩する現代の青少年たち。そんな彼らと、戦時中の窮屈な時代においても、みずみずしい感性で多くの詩を残し、最期まで自分らしく生きることを諦めなかった詩人・竹内浩三を会わせたい…。そんな思いで2018年に誕生しました。

浩三の出身地である伊勢を舞台に、浩三と、明るく逞しい伊勢の人々との出会いの中で、少しずつ「生きること」と向き合い始める宮斗の心の変化を描いています。

いくつかの出会いと別れの中で成長していく主人公の姿を通して「生きるとは何か」をストレートに問いかける感動の舞台です。

感想



普段どんな映画や話でもこんなに泣かないのに、今回は自分でも驚くぐらい号泣してしまった。涙が止まらなかった。浩三さんのような生きかたにあこがれる。ありがとうございました。ずっと忘れません。
(高校生)

私も主人公のように時々人生とは何だろう、生きるとは何だろうと考えることがある。劇を見終えて、自分なりの生きる楽しさを見つけていこうと思った。浩三さんはいくさに征ったけれど、宮斗にも私にも明日を生きる勇気と前向きさをくれた。
(高校生)

浩三さんは幽霊ではなく宮斗の心が生み出した存在だとわかる場面を観たときに、人が極限まで追いつめられた時に、最後に守ってくれるのは自分の中にある文化的体験だと感じた。「死にたい」と宮斗は言っているが、それは「楽しく生きたい」と同じ意味だったと思う。
(大人)



あらすじ

家にも学校にも居場所を見つけれない高校生の宮斗。ある日、彼の前に風変わりな一人の青年が現れ、彼に話しかける。「なんしとん？」彼の名は竹内浩三。

夏休み、宮斗はおばあちゃんが暮らす父の故郷伊勢へ向かう。久しぶりに再会するおばあちゃん、伊勢で出会った温かい家族、そして浩三との出会いの中で、宮斗の心は少しずつほぐれ、変わっていく…。

美術＝乗峯雅寛 方言指導＝脇田康弘 製作＝白木匡子
照明＝河崎 浩 (劇団俳優座) 佐藤尚子
音響効果＝石井 隆 舞台監督＝新庄広樹
衣裳＝宮岡増枝 演出助手＝清原達之



イラストは竹内浩三の描いたものです。(藤原書店 提供)



秋田雨彦・土方与志記念

青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-9-20 間川ビル4F TEL03 (3352) 6990
E-mail info@seinengekijo.co.jp https://gakko-kouen.seinengekijo.co.jp